

日本離婚・再婚家族と 子ども研究学会 第6回大会プログラム

The 6th Annual Conference Program of

the Japanese Association for Research on Children of Divorced Families and Stepfamilies

テーマ：現代社会における面会交流
—高葛藤父母の場合—

2023年 10月14日(土)・15日(日)
東京国際大学川越第二キャンパス & オンライン開催

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

第6回大会開催にあたってのごあいさつ

第6回大会実行委員長 小田切紀子

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会第6回大会は、下記の通り、東京国際大学で開催させていただきますことになりました。

本大会では、「面会交流」について、本学会の特色である学際的観点から改めて考えたいと思います。大会第2日目の大会特別企画では、アメリカのSupervised Visitation Network(監督付き面会交流支援ネットワーク)のエグゼクティブ・ディレクターであるジョー・ヌレット氏が、アメリカにおける高葛藤父母の面会交流についての特別講演をオンラインで行います。研究発表とラウンドテーブルでは、学会会員による興味深い報告や企画が予定されています。

東京国際大学の川越第二キャンパスは、東武東上線・霞ヶ関駅から徒歩15分、池袋から急行で35分の川越市にあります。同市は、江戸時代の城下町として栄え、蔵作り建築様式の古い土蔵や商家が建ち並び、歴史ある街並みが名所となっています。

皆様のご参加を、心からお待ちしております。

開催日時：令和5年10月14日(土) -15日(日)

開催場所：東京国際大学・川越第二キャンパス(埼玉県川越市的場2509)

大会テーマ：「現代社会における面会交流—高葛藤父母の場合—」

本大会プログラムは、学会員全員と大会に参加申込みをされた一般の方に、大会のタイムスケジュールや場所などについて、お知らせするものです。諸事項についてのご案内のほか、第1日(10月14日)の基調講演や大会シンポジウムの抄録、第2日(10月15日)の概要等を掲載しました。(第2日の特別企画やラウンドディスカッション・研究発表の抄録は、大会抄録集をご覧ください。大会抄録集は、大会に参加登録された会員の方にのみ、配信する予定です。ご了承ください。)

なお、10月14日は川越で「川越祭り」があります。川越駅周辺のホテルは満室となる場合があります。ご留意ください。また、大学周辺に食堂やコンビニはありません。昼食時は事前にお弁当などをご用意いただくことをお勧めいたします。

大会実行委員会

目次

| | |
|------------------------------|----|
| 大会スケジュール..... | 4 |
| 大会の会場参加者へのアクセスのご案内..... | 5 |
| 大会に参加される方へのご案内..... | 7 |
| 研究発表、ラウンドテーブル企画者の方へのご案内..... | 5 |
| 基調講演..... | 8 |
| 大会シンポジウム..... | 9 |
| 大会特別企画..... | 11 |
| 会員企画ラウンドテーブル 1 | 13 |
| 研究発表①②③④..... | 13 |
| 会員企画ラウンドテーブル 2 | 14 |

大会スケジュール

大会スケジュール1日目 10月14日(土)

| | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 | |
|---------------------------|---------------------------------|---|-------|--|---|----------|-------|--------------------------|-------|--|
| 2522教室 対面 Zoom ① | 10:00 - 10:30 会場準備・打ち合わせ | 10:30 - 12:00 基調講演 (一般公開) 日本社会の構造的変化と家族 山田昌弘 氏 | | 13:00 - 16:20 大会企画シンポジウム(一般公開) 「高葛藤父母間に育つ子どもに、別居親、同居親、社会は何かができるか」 夫婦・親子間の葛藤の深層にあるもの 妙木浩之 氏 | 子どものための面会交流 —ACCSJ(面会交流支援 全国協会)の挑戦— 高田純子 氏 | ディスカッション | | 16:30 - 17:00 年次総会 | | |
| 2524教室 | ← 休憩室 (ご自由にお使いください。お食事も可能です。) → | | | | | | | | | |

大会スケジュール2日目 10月15日(日)

| | 10:00 | 11:00 | 12:00 | 13:00 | 14:00 | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 | |
|---------------------------|---------------------------------|---|-------|---|---|---|---|------------------|-------|--|
| 2523教室 対面 Zoom ① | | 10:30 - 12:00 大会特別企画 アメリカにおける高葛藤父母の面会 交流のケースへの対応 ゲストスピーカー: Joe Nullet | | 13:00 - 14:30 会員企画ラウンドテーブル1-I 高葛藤離婚事例への支援・介入プロ グラムの適用可能性に関する検討 ① | 14:40 - 15:40 研究発表 I ① 子どもの手続 代理人選任の 臨床心理学的 考察—家族調 査官の役割と の違いに焦点 を当てて | ② 単独親権制 の憲法上の 問題—平等 原則違反を 中心に | 15:50 - 17:20 会員企画ラウンドテーブル2-I ステップファミリーをめぐる呼称の 問題 —離婚・再婚に関わる婉曲語使用は 支援実践に何をもちたうのか | 閉 会 の 辞 | | |
| 2525教室 対面 Zoom ② | | | | 13:00 - 14:30 会員企画ラウンドテーブル1-II 第三者機関を介した面会交流の現 状と課題 —「びじっと」の支援利用者へのアン ケート調査結果を中心に— | 14:40 - 15:40 研究発表 II ③ 親の離婚を 経験した子 どもと別居 親祖父母と の関係に関 する探索的 研究 | ④ 日本語版別 居・離婚家族 のリスクア セスメント ツールの開発と 試行的運用 | 15:50 - 17:20 会員企画ラウンドテーブル2-II 面会交流支援実務における課題と工 夫 | | | |
| 2524教室 | ← 休憩室 (ご自由にお使いください。お食事も可能です。) → | | | | | | | | | |

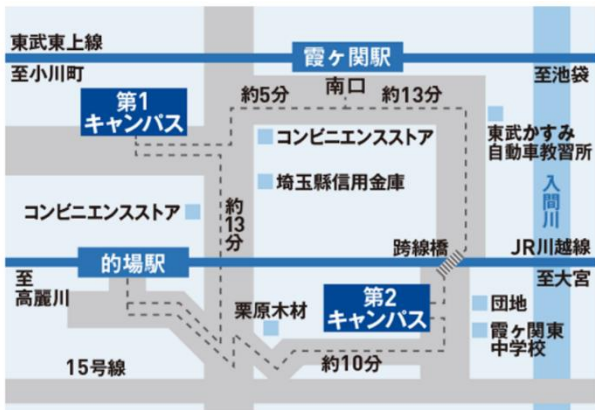
付記

当日の会場教室を一部変更しました。旧プログラムには1日目 2523 教室となっていたものが、2522 教室に変更しました。上記のとおりです。(10月10日追記)

大会会場参加者へアクセスのご案内

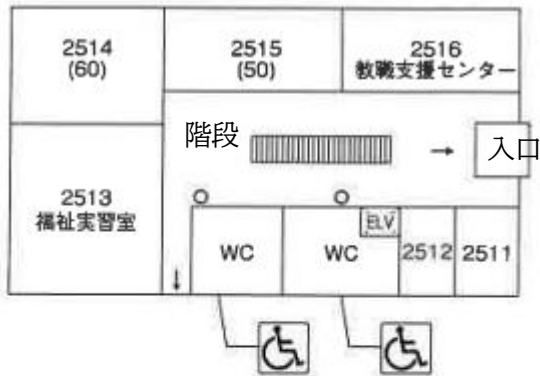
1. 会場と使用ツール

場所：東京国際大学 第2キャンパス 25号館2階(〒350-1198 埼玉県川越市的場 2509)

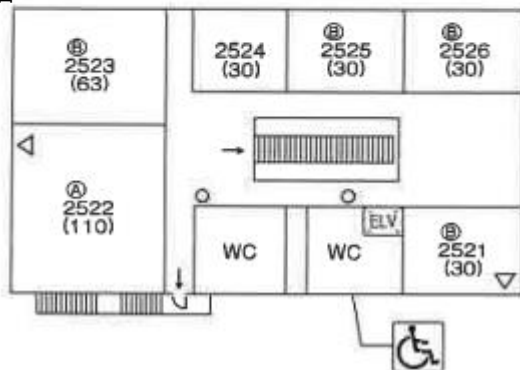


25号館案内図

1階



2階



注意

- ・会場は第2キャンパスです。第1キャンパスではありませんので、ご注意ください。
- ・JR川越線は本数が少ないので、JRで来られる場合は列車ダイヤを事前に確認しておいてください。
- ・東武東上線霞ヶ関駅南口を出て、線路沿いに池袋方向に道なりに進むと、JRをまたぐ跨線橋があります。跨線橋を渡ると、会場（東京国際大学第2キャンパス）があります。
- ・正面入口を入ると、左前方にある2階建て校舎が25号館です。25号館に入ると、2階にあがる階段があります。2階にお上がりください。
- ・2524教室を休憩室として2日間とも終日開放いたしますので、昼食休憩などご自由にお使いください。論文の抜き刷り、ご所属団体のチラシやパンフレットなどを置いていただくことも可能です。各種情報交流スペースとしてご活用ください。

大会に参加される方へのご案内

1. 基調講演 | 対面・Zoom ビデオウェビナー

シンポジウム・研究発表・ラウンドテーブル | 対面・Zoom ミーティング

(アクセスに必要な情報は、大会 7 日前に配信予定の大会参加者宛のメールにてご案内します。)

2. 受付 (会場参加の方)

25 号館 2 階 受付窓口で、受付して参加証を受け取ってください。(大会期間中は、参加証をおつけください。)

3. 大会本部

場所：2521 教室 (同階)

何かお困りの際はお越しくください。

4. 交流会 (会員のみ)

日時 | 大会 1 日目 (10 月 14 日・土) 17:30-19:30 年次総会終了後 霞ヶ関南口駅前「魚民」
<ご注意>

10 月 9 日 (月) までに、大会事務局 2023office@jarcds.org にお申し込みください。一人 3700 円 (飲放題、2 時間) の予定です。

5. 年次総会

日時 | 大会 1 日目 (10 月 14 日 (土)) 16:30-17:00

場所 | 2523 号教室及び Zoom

学会に対する会員の皆さまの期待やご意見をお聞かせください。

6. 非会員の参加について (基調講演とシンポジウムのみ)

基調講演、シンポジウムのみ、非会員の一般の方は参加できます。なお、シンポジウム時の質疑は学会員のみとさせていただきます (オブザーバーとして質疑を聴かれてもかまいません)。

7. 参加にあたって厳守していただきたいこと

参加申し込み時に、すべての企画についての守秘義務および、録音・録画・写真撮影を行わないことに同意していただいておりますので、その旨ご了承ください。

8. 書籍販売ブースについて

25 号館 2 階のスペースで書籍販売を行っております。また、大会プログラムの巻末に出版社様の広告を掲載させていただいております。ぜひ御覧ください。

9. お問い合わせ

・会場や大会全般に関するお問い合わせ 第 6 回大会事務局へ 2023office@jarcds.org

・入会等に関するお問い合わせ 学会事務局へ info@jarcds.org

研究発表，ラウンドテーブル企画者の方へのご案内

1. 【必須】マニュアルについて

研究発表（口頭）を行う会員やラウンドテーブル企画者は，事前に大会ホームページに掲載されているマニュアルの該当部分をご一読ください。発表の準備や当日の進行は，マニュアルに従って進めてください。マニュアルは，随時（開催当日中にも）改訂される可能性があります。ときどき，こちらのページで最新バージョンをチェックしてください。

2. 【必須】発表時に画面共有するスライドや資料の提出について

研究発表（口頭）を行う会員やラウンドテーブル企画者は，発表時に画面共有するスライド等を，10月13日（金）正午までにPPTまたはPDF形式で大会事務局（2023office@jarcds.org）宛のメール添付ファイルで提出してください。発表中にインターネット通信トラブル等で発表者が発表できなくなった場合に，大会事務局が代理でその資料を提示することがあります。トラブル等がなかった場合には資料は提示せず，他の目的で使用することはありません。

3. （任意）配布資料について

研究発表（口頭）を行う会員やラウンドテーブル企画者で事前に配布したい資料等がある場合は，10月13日（金）正午までに，大会事務局（2023office@jarcds.org）に提出（添付ファイル送信）してください。大会に参加申し込みをした人のみが資料をダウンロードできるように，大会ホームページのパスワードをかけたページに掲載します。大会実行委員会・企画委員会は，プリントや対面会場での配布などをしませんので，ご注意ください。（発表者自身が会場で配布するのは任意です。）

4. 【必須】事前打ち合わせについて

10月15日に研究発表（口頭）を行う会員は，発表当日（14：30－14：40を予定）に研究発表者・司会者で打ち合わせを行います。オンラインで発表する場合も同様です。ラウンドテーブル企画者も同様に，登壇者と共にラウンドテーブル開始時刻の5分前までに，ラウンドテーブルで使用するZoomミーティングに接続し，簡単な段取りの確認を行うようにしてください。

基調講演

10月14日 10:30-12:00 対面会場 (2522 教室) & Zoom

「日本社会の構造的変化と家族」

講演者 | 山田 昌弘 (中央大学)
司会 | 小田切紀子 (東京国際大学)

「人生 100 年時代」と言われるようになった。1960 年の日本の平均寿命は男性約 65 歳、女性約 70 歳。それが、2022 年にはそれぞれ、約 81 歳、88 歳。男女とも 15 年以上延びた。これは、単に老後の期間が長くなったことを意味しない。60 年前に若者だった人(1940 年産まれ前後)は、98%が結婚し、離婚は 1 割程度。しかし、今の若者(1980 年産まれ以降)は、25%が一生未婚、25%の人が一度は離婚と予測されている。結婚して離婚せず高齢を迎えることができる若者は半分以下と見積もられている。更に、非正規雇用が増えるなど、職業も不安定化している。

従来、標準的なライフコースといわれていたもの(結婚して離婚せず、夫は主に仕事で定年まで勤め、妻は主に家事で子どもが巣立って老後を迎え、年金で悠々な老後生活)を迎える人は、圧倒的少数派になるのが、人生 100 年時代なのだ。

これは、ライフコースが「リスク」化するということである。今の若者は、自分が高齢者となったとき、果たして自分が結婚しているのか、離別しているのか、子どもがいるのかいないのか。仕事でも、若いころ定職に就けたのか、一生フリーターを続けていたのか。経済的にも、年金や貯金が十分あって悠々引退できるのか、収入が少なくして一生低賃金で働かざるを得ない生活が待っているのか、事前に分からないのが現実である。

戦後には、日本家族のあり方が、「夫は主に仕事で妻は主に家事で豊かな生活を築く」ことが理想となり、経済成長という条件の下でほとんどの人が可能であった。

しかし、1990 年頃から始まる経済の転換期により、格差社会が始まる。その結果、従来通りの家族生活を築ける若者と、未婚者や離別者など主に経済的な理由で家族が形成、維持できない若者に分裂していく。

従来と同じような家族を作れる人は、それを維持するための努力に追われる一方、従来家族を形成できない人が、様々な形で存在する社会となった。

従来通りの家族を形成できない人は、どのような形で親密性を充足させるのだろうか。新しい形での親密性が形成されるのだろうか、それともバーチャルな関係で満足を得ようとするのだろうか。考察していきたい。

大会シンポジウム

10月14日 13:00-16:20 対面会場 (2522 教室) & Zoom

高葛藤父母間に育つ子どもに、別居親、同居親、社会は何ができるか

シンポジスト | 妙木浩之 (東京国際大学) 「夫婦・親子間の葛藤の深層にあるもの」

シンポジスト | 高田恭子 (広島大学) 「子どものための面会交流—ACCSJ (面会交流支援全国協会) の挑戦—」

司 会 | 小田切紀子 (東京国際大学)

【企画趣旨】

シンポジウムのテーマは「高葛藤父母間に育つ子どもに、別居親、同居親、社会は何ができるか」としました。裁判所で面会交流を調停しても、夫婦が高葛藤ゆえに子どもとの面会交流がうまくいかないケースを、現場で経験されている会員の皆様も多いと思います。大きな社会の変化を山田先生の基調講演で共通理解とした上で、お二人のシンポジストをお迎えしたいと思います。開催校でもある東京国際大学から妙木浩之先生には「夫婦・親子関係の深層にあるもの」として精神分析学・臨床心理学というご専門の立場から、高葛藤父母への日本的な対応のあり方のヒントをご講演いただきます。もう一人のシンポジストは、広島大学の高田恭子先生です。高田先生は、英国の法的仕組みと当事者の支援制度から、その必要性を学び、日本の面会交流支援団体と一緒に ACCSJ (面会交流支援全国協会) を立ち上げました。現在、ACCSJ は、面会交流支援団体の認証を開始しています。そこで、面会交流支援に焦点をあてて、子どものための面会交流とは何か、そこで必要となる支援は何かについて講演いただきます。

夫婦・親子関係の深層にあるもの
子どもから見た両親のつながりについて

妙木浩之 (東京国際大学)
13:00~14:00

【報告要旨】

離婚で子供たちが両親の紛争、喧嘩、あるいは結びつきをどのように見えているのか、は、長く精神分析が関心を持ってきた主題であった。フロイトは性的な虐待を何か人間の空想の産物にしてしまったというのは、ハーマンが批判する通りかもしれないが、両親のつながりについてのさまざまな空想が、人の発達に大きな影響を及ぼすというのは、フロイトではなく、フェレンチ達お弟子さんに引き継がれてきた主題である。

今回のお話は、その歴史の出発点、つまり原光景の理論から、現代まで、両親のつながりを、子供がどう見えやすいのか、ということを中心に、高葛藤の両親をもつ子供の空想に「見ること」の主題が取り上げ

られている事例について議論したいと思う。おそらく両親の問題を、子供がどのように解決して、解消していくのかといった問いに対する精神分析的な議論を通して、離婚を子供たちにどう伝えたらよいのかという着想にも触れられたらと思っている。

子どものための面会交流—ACCSJ（面会交流支援全国協会）からの挑戦—

高田恭子（広島大学）

14:10～15:10

【報告要旨】

父母が高葛藤にある事案では、多様な背景事情がある。あわせて、DVや児童虐待、高葛藤の状況下での面会交流が、子どもの利益を害する可能性を示す社会調査の結果もある。家庭裁判所においては、面会交流に関する調停や審判は、その根本的な原因の解明や葛藤をもたらず問題の解決ではなく、その時点で可能と考えられる面会交流の設定に焦点が当てられている。そのような中で、面会交流の合意や審判があっても、当事者だけでは面会交流が行えない場合、第三者機関による支援が必要となる。本報告では、面会交流支援全国協会（ACCSJ）の立ち上げに携わり、面会交流支援団体の適正を示す認証制度の構築に向けて取り組んで来た経験、および面会交流の実態調査の分析から、父母が高葛藤下にある場合に、子どもの利益がどのように凶られるべきかを検討し、現行制度で、子どものための面会交流を実現するための社会的支援について提言する。

ディスカッション

15:20～16:20

大会特別企画

10月15日 10:30-12:00

会場(2523 教室) + zoom

企画名：アメリカにおける高葛藤父母の面会交流のケースへの対応

企画者：青木聡（大正大学）・小田切紀子（東京国際大学）・草野智洋（琉球大学）

ゲストスピーカー：Joe Nullet, Executive Director of Supervised Visitation Network

米国の監督付き面会交流支援ネットワーク(Supervised Visitation Network: SVN)のエグゼクティブ・ディレクター、ジョー・ヌレットさんに、米国の高葛藤父母および子どもが拒否する面会交流のケースへの支援者の同居・別居親・子どもに対する関わり、留意点、さらに SVN が提供している支援者向けの研修について、オンラインで講演してもらい、参加者とのディスカッションを通して日本における高葛藤父母と子どもが拒否するケースの面会交流支援に生かしたいと思います。

講演は英語（日本語の字幕付）、質疑応答は通訳がつきます。

会員企画ラウンドテーブル 1

I | 会場 2523 教室+Zoom 10月15日 13:00-14:30

高葛藤離婚事例への支援・介入プログラムの適用可能性に関する検討①

企画者 | 曾山いづみ (神戸女子大学)

話題提供者 | 直原康光 (富山大学)

話題提供者 | 大西真美 (杏林大学)

話題提供者 | 大瀧玲子 (東京都立大学)

話題提供者 | 山田哲子 (立教大学)

話題提供者 | 福丸由佳 (白梅学園大学)

本ラウンドでは、まず高葛藤に関する定義を検討した後、高葛藤離婚事例への支援・介入プログラムについて紹介し、その特徴と日本における適用可能性について検討を行う。支援・介入プログラムとしては、Families Transitions Guide プログラム (Braver et al., 2016)、PACT プログラム (Brown et al., 2009)、“No Kids in the Middle”プログラム (Visser & Lawick, 2021) と共に、シンガポールにおける取り組みを紹介する。

II | 会場 2525 教室+Zoom 10月15日 13:00-14:30

第三者機関を介した面会交流の現状と課題

—「びじっと」の支援利用者へのアンケート調査結果を中心に—

企画者 | 濱野健 (北九州市立大学)

話題提供者 | 濱野健 (北九州市立大学)

話題提供者 | 二宮周平 (立命館大学名誉教授)

話題提供者 | 古川玲子 (一般社団法人びじっと)

本ラウンドテーブルでは、2023年4月から5月にかけて実施した面会交流支援団体である一般社団法人びじっとの利用者アンケート調査の結果をふまえ、現代日本における第三者機関を介しての面会交流の現状と、今後の課題について議論する。こうした制度的な面会交流支援がわが国においてどのように受け止められ、整えられていくのか、団体代表者と法学および社会学を中心にした専門家による多面的な視点からからの論点提起や、その可能性を検討する。

研究発表

10月15日 14:40-15:40

I 会場 (2523 教室) + zoom 司会: 福丸由佳 (白梅学園大学)

14:40-15:10

① 子どもの手続代理人活動の臨床心理学的考察—家裁調査官の役割との違いに焦点を当てて

村尾泰弘 (立正大学)

子どもの手続代理人がかかわった二つの事例を取り上げ、その役割と効果を臨床心理学の立場から考察する。特に、家庭裁判所調査官の役割との比較を試みる。役割として、子どもの意思形成支援 (池田, 2022) に着目し、家裁調査官の活動との違いを掘り下げる。また、臨床心理士との協働の在り方や臨床心理士の活用する場合の考慮点、子どもの手続代理人の活動が求められる条件なども臨床心理学的に検討する。

15:10-15:40

② 単独親権制の憲法上の問題～平等原則違反を中心に

古賀礼子 (稲坂将成法律事務所・第一東京弁護士会)

令和元年頃より、単独親権制の違憲性を問う国家賠償請求訴訟が続けて提訴されており、各事件の判決が出ている。上級審に係属している最中ではあるが、明確な違憲性を認定した判断は未だなされていないものの、議論の進展は見られ、実務への影響も感じられることから、各事件について紹介する。

II 会場 (2525 教室) + zoom 司会: 曾山いづみ (神戸女子大学)

14:40-15:10

③ 親の離婚を経験した子どもと別居親祖父母との関係に関する探索的研究

野口康彦 (茨城大学)

本研究では、親の離婚を経て、別居親の祖父母との交流経験を有する成人を対象とし、離婚後の子どもが別居祖父母に抱く存在やイメージ・感情に焦点をあて、PAC (Personal Attitude Construct) 分析を用いて、探索的に検討を行った。

15:10-15:40

④ 日本語版別居・離婚家族のリスクアセスメントツールの開発と試行的運用

—ADR による調停における試行的運用を通じて— 一直原康光 (富山大学)、小田切紀子 (東京国際大学)

本研究の目的は、別居・離婚後の家族のリスクを多側面から測定する Detection Of Overall Risk Screen (DOORS; McIntosh & Ralfs, 2012) の日本語版を開発し、ADR や面会交流支援の現場で活用することである。現在、ADR による調停において試行的運用を行っており、本報告では、いくつかのケースの概要と対象ケースの調停人のインタビュー結果を示し、DOORS を用いるメリットや課題について検討する。

会員企画ラウンドテーブル2

10月15日 15:50-17:20

I | 会場 2523 教室+Zoom 10月15日 15:50-17:20

ステップファミリーをめぐる呼称の問題

—離婚・再婚に関わる婉曲語使用は支援実践に何をもたらすのか

企画者 | 菊地真理 (大阪産業大学)
話題提供者 | 菊地真理 (大阪産業大学)
話題提供者 | 小榮住まゆ子 (椋山女学園大学)
討論者 | 野沢慎司 (明治学院大学)
討論者 | 高田祐介 (救世軍機恵子寮)

親が離婚した子どもの家族は、ほぼ自動的に「ひとり親家族 (家庭)」とみなされ、ステップファミリーは子連れ再婚家族と同義であるとみなされる。継父母は、「新しいお父さん/お母さん」か、養父母・義父母などと呼ばれることも多い。私たちが無自覚に使用する婉曲用語 (呼び名) はどのような家族観・家族像を反映し、子ども・家族支援の実践にいかなる影響を及ぼしているのか、社会調査とソーシャルワークの現場から得られた事例をもとに検討してみたい。

II | 会場 2525 教室+Zoom 10月15日 15:50-17:20

面会交流支援実務における課題と工夫

企画者 | 草野智洋 (琉球大学)
話題提供者 | 古市理奈 (一般社団法人びじっと)
話題提供者 | 築城由佳 (NPO 法人ハッピーシェアリング)
話題提供者 | 新垣輪 (沖縄共同養育支援センター・わらび)
司会者 | 草野智洋 (琉球大学)

本学会には面会交流支援の実務家が多数所属していますが、学会では学術的な研究発表が主流であり、日々の実務についての知見の共有はあまり行われていないのではないのでしょうか。本ラウンドテーブルでは、「学術的であること」や「学会らしさ」を脇におき、面会交流支援の実務を行ううえでの課題や工夫をざっくばらんに語り合いたいと思います。実務家の知恵と経験は、研究者にとっても貴重な情報になるはずです。

子どもの権利保障と親の離婚

2023.3刊行
二宮周平 編

A5・並製・348頁 4,800円(税別) ISBN4797293067 C3332

【目次】

・はしがき〔二宮周平〕

◆Ⅰ 親の別居・離婚と子どもの実情

- 1 父母の離婚を経験した子ども—2021年に実施された3件のウェブ調査から〔青木 聡〕
- 2 子の養育に関する父母の取決めと実践—厚労省「全国ひとり親世帯等調査結果報告」(2021年)から〔二宮周平〕

◆Ⅱ 離婚後の子の共同養育

- 3 オーストラリア家族法における離婚後の共同養育推進と子の保護の取組み〔古賀純子〕
- 4 ドイツ家族法における別居・離婚後の共同配慮〔稲垣朋子〕

◆Ⅲ 面会交流

- 5 離婚後の親子の交流に関する実態—ヒアリング調査のケース分析〔高田恭子〕
- 6 面会交流支援の現状と課題〔古川玲子〕

◆Ⅳ 養育費

- 7 養育費履行確保へ向けた公的支援〔松久和彦〕

◆Ⅴ 司法手続における子の意思の尊重

- 8 子どもの手続代理人と子どもの意見表明〔岡崎倫子〕
- 9 子奪取条約と〈子どもの声〉〔嘉本伊都子〕
- 10 ニュージーランド家族法における子の福祉と最善の利益および意見表明〔梅澤 彩〕

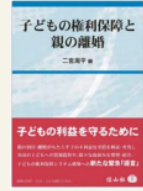
◆Ⅵ 子どもと親への情報提供

- 11 韓国における子どもへの情報提供—子どもへの情報提供冊子「いつも愛してる」の製作と活用〔宋 賢鍾〕
- 12 ハワイ州における離婚と子育てプログラム〔立石直子〕

- 13 親プログラムの実践:親ワークショップ(家族のカタチが変わるとき)〔高田恭子〕

◆Ⅶ 親の別居・離婚における子どもの権利保障システムの構築

- 14 現状の整理と5つの提案〔二宮周平〕



子どもの権利を守るために、親の別居・離婚がもたらす不利な実情を検証・考究、各国の子どもへの情報提供や、様々な取組みを紹介

LGBTQの家族形成支援【第2版】

— 生殖補助医療・養子&里親による —

2023.3刊行 二宮周平 編

待望の第2版



子どもの意見表明権の保障

— 家事司法システムにおける子どもの権利 —

2023.7刊行

原田綾子 著

国際人権法の歴史

新国際人権法講座
第1巻

国際人権法学会30周年記念企画

小畑郁・山元一 編集

子どもたちの命と生きる

— 大川小学校津波事故を見つめて —

飯 考行 編著 12年目にして語られる遺族の手記と、未来へ託すメッセージ



<http://www.shinzansha.co.jp>

〒113-0033 東京都文京区本郷2-9-102 東大正門前
TEL:03(3818)1019 FAX:03(3811)3580 E-mail:order@shinzansha.co.jp



信山社

家事事件で悩む現代的論点を網羅した33のケース別解説と66の文例を掲載。



令和版 実践遺言作成ガイド

元裁判官と公証人からの最新アドバイス
家族構成・目的別に探す失敗しない66の文例

弁護士・元東京家庭裁判所部総括判事 片岡武・東京法務局所属公証人 花沢剛男 著
2023年9月刊 定価2,640円

- フローチャート形式で、具体的な遺言作成のための準備事項や仕組みを紹介(序章)。
- 家族形態やライフスタイルなど、依頼者の多様なニーズに合わせた財産承継方法と留意点を解説。

家庭の法と裁判 46

2023年10月刊 定価1,980円

FAMILY COURT JOURNAL

特集 改正DV防止法の概要と実務運用

村上耕司(内閣府男女共同参画局男女間暴力対策課男女共同参画推進官)／大山雄太郎(内閣府男女共同参画局男女間暴力対策課係長)
可児康則(弁護士)
細田 隆(前・(公財)日本調停協会連合会研修委員会家事部会委員、元家裁調査官(家事調停委員))
草柳和之(メンタルサービスセンター代表・カウンセラー、大東文化大学講師)

※肩書は執筆当時。



日本加除出版
(価格は税込)

〒171-8516 東京都豊島区南長崎3丁目16番6号
営業部 TEL(03)3953-5642 FAX(03)3953-2061
www.kajo.co.jp ツイッターID:@nihonkajo

こちらからも
ご注文
いただけます



コラージュ療法のすすめ

実践に活かすための使い方のヒント



森谷寛之 監修

日本コラージュ療法学会 編

簡便で取り組みやすい「切り貼り遊び」のさまざまな臨床領域での実践例や他の心理療法との併用、他分野への応用といった広がりを紹介する。

A5判 並製 244頁 定価3,960円

精神科医という仕事

日常臨床の精神療法

青木省三 著

筆者は、子どもから大人まで診るベテラン精神科医として知られる。本書には四十年を越える臨床経験から、日常臨床で応用可能な精神療法面接のこつが詳細に解説される。

四六判 上製 220頁 定価3,080円

個人心理療法再考

青上田勝久 著

「精神療法」での連載の単行本化。著者が臨床の場で学んできたことを通じて「個人心理療法」の技能の内実、有効性、価値を問い直す。

四六判 並製 288頁 定価2,970円

クライアントの側からみた心理臨床

治療者と患者は、大切な事実をどう分かちあうか



村瀬嘉代子 著

対人援助職の要諦は、クライアントの生活を視野に入れることである。クライアントとセラピストの信頼関係が成り立つ基本要因を探る。

四六判 並製 488頁 定価3,960円

ふつうの相談

東畑開人 著



対人支援面接も友人の悩み相談も、すべては〈ふつうの相談〉から始まった！ すべてのケアする人に贈る「つながり」の根源的思索。

四六判 上製 208頁 定価2,420円

臨床心理学スタンダードテキスト



岩壁 茂、遠藤利彦、黒木俊秀、中嶋義文、中村知靖、橋本和明、増沢 高、村瀬嘉代子 編

臨床領域・学問領域ごとに第一人者が展開する集合知の結晶であり、公認心理師時代を迎えた臨床心理学の新基準スタンダード。

B5判 上製 1000頁 定価16,500円

Ψ 金剛出版

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16
Tel.03-3815-6661 Fax.03-3818-6848

<https://www.kongoshuppan.co.jp/>
*価格は税込表示(10%)です。